

出エジプト記 23:20-24:18 聖なる神

出エジプト記を一言にまとめるとしたら、「聖さ」ではないでしょうか。この書は、モーセが聖なる神に出会う場面から始まります。出エジプト記 3:5 で、神はモーセにこう語られます。「ここに近づいてはならない。あなたの履き物を脱げ。あなたの立っている場所は聖なる地である。」そのとき、神はご自分のヤハウエ「わたしはある」という御名を明らかにされ、その聖なるご臨在がこの書全体の主題となっていきます。出エジプト記の最初の部分には、神がご自分の民をエジプトからどのように救い出されたかが記されています。紅海を渡った後、モーセは民を救った神の聖さを讃え歌いました。出エジプト記 15:11-12 には「1 主よ、神々のうちに、だれかあなたのような方がいるでしょうか。だれがあなたのように、聖であって輝き、たたえられつつ恐れられ、奇しいわざを行う方がいるでしょうか。12 あなたが右の手を伸ばされると、地は彼らを呑み込んだ。」とあります。19 節からは、神がご自分の民をシナイ山に導き、律法と契約をお与えになり、その圧倒的な聖さが示されます。聖さー神の完全な罪のなさーと義ーこれこそが、人が神の御前に立つために何が必要かを示しています。「聖なる」という言葉は、18 章までにはわずかに数回しか使われていませんが、19 章以降では 50 回以上も使われています。この契約における神の聖さについての目的は出エジプト記 19:5-6 に明確に記されています。「5 今、もしあなたがたが確かにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。6 あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。」これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」聖さは、神がご自分の民になさるすべての業の根底にあるものです。先週、この聖なる国民を立て上げるために、その中心にある安息日について考察しました。今日は、出エジプト記 23:20-24:18 から、神の民の日常に見られる神の聖さについて見ていきます。

この箇所に見られる神の聖さについての一つの点は、神の導きは常に聖さに向かうということです。20-21 節を見てください。「20 見よ。わたしは、使いをあなたの前に遣わし、道中あなたを守り、わたしが備えた場所にあなたを導く。21 あなたは、その者に心を留め、その声に聞き従いなさい。彼に逆らってはならない。わたしの名がその者のうちにあるので、彼はあなたがたの背きを赦さない。」神はみ使いを通して民を導くと約束されましたが、後に荒野を進む時、火と雲の柱が民を導きました。それらは生きた存在ではありません。ですが、このみ使いは生きた存在でした。「彼」や「彼の」といった人称代名詞が用いられています。人々はこのみ使いに抗うことができますが、このみ使いは罪や背きを赦す力があります。事実、このみ使いについてガブリエルや創世記に登場した主のみ使いといった名前は明かされていませんが、その正体を示唆するいくつかの手がかりがあります。21 節の後半に「わたしの名がその者のうちにあるので、彼はあなたがたの背きを赦さない。」とあります。そこには 2 つの重要な事実があります。このみ使いには背きを赦す力を持ち、神ご自身の名が何らかの形で彼のうちにあるということです。聖書全体を通して、これらの特徴を備えておられる方は、この他にただ一人しかおられません。イエスご自身です。イエスは罪を赦すことができるお方です。マタイの福音書 9:2 はその一例を記しています。「2 すると見よ。人々が中風の人を床に寝かせたまま、みもとに運んで来た。イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に「子よ、しっかりしなさい。あなたの罪は赦された」と言われた。」また、私たちはイエスが神性と人間性の両方を備えておられることを知っています。完全に神であられ、完全に人間でおられます。ヘブル人への手紙 1:3 はイエスについて「3 御子は神の栄光の輝き、また神の本質の完全な現れであり、その力あるみことばによって万物を保っておられます。御子は罪のきよめを成し遂げ、いと高き所で、大いなる方の右の座に着かれました。」と言っています。もちろん、み使いがイスラエルの民を導くイエスの降臨前の姿であると断言できるわけではありませんが、少なくともみ使いが私たちにイエスを指し示すことは明らかです。これら 2 つの聖句は、神に従うためには聖さが必要であることを示しています。このみ使いは民の罪を赦し、聖なる者とします。そうすることで、民は神に背くのではなく、神に従うようになるのです。もし罪が赦されておらず、聖なる者とされていないのであれば、神に従うことはできません。この神の民を導くみ使いは、罪の赦しを与える力を持っています。それは、イエスが私たち皆に与えてくださるものです。

出エジプト記 23:22-24 では、聖なる者となる必要性がさらに明確に示されています。「22 しかし、もしあなたが確かにその声に従い、わたしが告げることをみな行うなら、わたしはあなたの敵には敵となり、あなたの仇には仇となる。23 わたしの使いがあなたの前を行き、あなたをアモリ人、ヒッタイト人、ペリジ人、カナン人、ヒビ人、エブス人のところに導き、わたしが彼らを消し去るとき、24 あなたは彼らの神々を拝んではならない。それらに仕えてはならない。また、彼らの風習に倣ってはならない。それらの神々を徹底的に破壊し、その石の柱を粉々に打ち砕かなければならない。」神の命令に従うこと、特に「わたしのほかに、ほかの神々があってはならない」という戒めと、「自分のために、偶像を造ってはならない」という戒めに従うことは、神の民が神の導きに従う道です。聖さは従うことによって示され、その従順さが神の民を世と分けるのです。神のみ使いはイスラエルの民を不信仰な国々の中導きますが、民は聖くあり続けるべきでした。私たちは神を礼拝しない者たちを滅ぼすように召されているわけではありませんが、その原則は変わりません。私たちはこの世の神々に仕えてはならないのです。金銭や教育、地位、家族、仕事、あるいは仏教や神道の神々、何であって神の座を奪うものはすべて偶像となります。イスラエルのように、私たちはこの世に生きつつも、この世の優先順位を共にしてはならないのです。イエスはヨハネの福音書 15:19 で「19 もしあなたがたがこの世のものであったら、世は自分のものを愛したでしょう。しかし、あなたがたは世のものではありません。わたしが世からあなたがたを選び出したのです。そのため、世はあなたがたを憎むのです。」と言われました。信徒が神の導きを感じないと口にするとき、それは、往々にしてこの世の偶像が神の座を奪っているからです。神が沈黙しておられるのではなく、私たちが真に耳を傾け、従っていないだけなのです。25-28 節に見られるように、私たちが従う時に神の導きと祝福を確信することがができるのだからです。「25 あなたがたの神、主に仕えよ。そうすれば、主はあなたのパンと水を祝福する。わたしはあなたの中から病気を取り除く。26 あなたの国には、流産する女も不妊の女もいなくなる。わたしはあなたの日数を満たす。27 わたしは、わたしへの恐れをあなたの先に送り、あなたが入って行く先のすべての民をかき乱し、あなたのすべての敵があなたに背を向けるようにする。28 わたしはまた、スズメバチをあなたの先に遣わす。これが、ヒビ人、カナン人、ヒッタイト人をあなたの前から追い払う。」民が「あなたがた（彼ら）の神、主に仕える（従う）」とき、神が約束されている数々の祝福に目を向けてください。民は、食べ物も健康も、子孫も長寿も、剣をとることすらせずに勝利さえ得るのです。スズメバチもがそのために働きの一端をいします。ですが、これを直接自分たちに当てはめて考える前に、これらの約束は特定の時代に生きる特定の民に与えられたことを忘れてはなりません。実際に、イスラエルの民はほどなくして、神に従わなかったため、こうした祝福を体験することができませんでした。従順であれば報酬を当然得られると、まるで神を ATM でもあるかのように、この個所を解釈してはなりません。それこそが、神を私たちの欲望のために従わせようとする、繁栄の福音の誤りです。私が捧げるなら、神は物質的に与えてくださるはずだと考えます。あるいは、イスラエルへの約束を直接教会に当てはめるという過ちを犯します。神の律法と契約のすべてはキリストにおいて成就しました。ですから、私たちの祝福は物質的なものではなく、キリストのうちに見出されるものなのです。イエスはマタイの福音書 6:34 で「ですから、明日のことまで心配しなくてよいのです。明日のことは明日が心配します。」と言われました。もし私たちがイエスに従い、イエスを通して聖く従順な人生を歩むなら、何も心配することはありません。必要なものすべてを神が与えてくださると信頼することができます。それは、私たちが望むすべてではなく、神が私たちに必要であることを知っておられるすべてのことです。時には、その中に痛みや、待つ時間、苦難も含まれます。つまり、神の主権的なご計画は私たちの願いと一致しないかもしれないけれど、常に神を高めると同時に、最終的には私たちにも益をもたらすものであります。

29-33 節にはまさにそのことが記されています。「29 しかし、わたしは彼らを一年のうちに、あなたの前から追い払いはしない。土地が荒れ果て、野の生き物が増え、あなたを害することのないようにするためである。30 あなたが増え広がって、その地を相続するまで、少しずつ、わ

たしは彼らをあなたの前から追い払う。」そして 32 節からには「32 あなたは、彼らや、彼らの神々と契約を結んではならない。33 彼らはあなたの国に住んではならない。彼らがあなたを、わたしの前に罪ある者としないようにするためである。あなたが彼らの神々に仕え、あなたにとって罠となるからである。」とあります。ここで、神の祝福は私たちの益のために段階的に与えられるということが分かります。神の大きな視点は私たちには図り得ません。イスラエルの民にとって、これほど多くの国々に周囲を囲まれていることは、防衛という観点から恐怖を感じるものであったかもしれません。神がここで言われたように、それは罪を犯す誘惑となり得たかもしれません。あるいは、交易とビジネスチャンスともなり得たかも知れませんが、「契約を結んではならない」とあることから、それもまた神のご計画ではなかったようです。ですが、神はイスラエルの民に地を与えるとき、町や建物、畑が利用可能な状態であるよう、それらの土地を守られました。私たちは神が何をなさっておられるのか、常に分かるわけではありません。ですが、もし神を本当に信頼しているのであれば、神はすべてにおいてご自分の栄光のため、また同時に私たちの益となり喜びとなるよう働かれる方だという、神のご性質を十分に信頼するべきです。

ですが、24 節からの部分では、神の聖さに関する 2 つ目の点が明らかになります。神は常に私たちを聖さへと導いておられます。富や繁栄、祝福にでもなく、神のご性質と栄光を反映すること導かれます。ですが、神に近づくとき、聖なる神は、被造物である私たちがどのように神に近づくべきかを定められます。私たちは礼拝を通して神に近づきますが、1 節と 2 節から始まる箇所に見られるのは、礼拝にある要素です。「主はモーセに言われた。「あなたとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は、主のもとへ上って来て、遠く離れて伏し拝め。2 モーセだけが主のもとに近づけ。ほかの者は近づいてはならない。民はモーセと一緒に上って来てはならない。」」まず、民による神への礼拝を監督する長老たちの姿、そして、主のもとへ来て、伏し拝めという礼拝への招きを見ます。そして、3 節からは次のように続きます。「3 モーセは来て、主のすべてのことばと、すべての定めをことごとく民に告げた。すると、民はみな声を一つにして答えた。「主の言われたことはすべて行います。」4 モーセは主のすべてのことばを書き記した。モーセは翌朝早く、山のふもとに祭壇を築き、また、イスラエルの十二部族にしたがって十二の石の柱を立てた。5 それから彼はイスラエルの若者たちを遣わしたので、彼らは全焼のささげ物を献げ、また、交わりのいけにえとして雄牛を主に献げた。6 モーセはその血の半分を取って鉢に入れ、残りの半分以上を祭壇に振りかけた。7 そして契約の書を取り、民に読んで聞かせた。彼らは言った。「主の言われたことはすべて行います。聞き従います。」」何が行われているのでしょうか。まず、神のみ言葉が読まれています。モーセは自分の意見を伝えているのではなく、民に神の言葉を告げています。しかもその言葉は文字に記された神の言葉でした。それは、私たちが礼拝において聖書を開き、み言葉を歌い、読み、説教することに行っていることです。次に、民が信仰の告白と従順への決意をもって神の言葉に応答する姿を見ます。この箇所では二度、民は「主の言われたことはすべて行います。」と応答しています。これが礼拝において毎回求めている応答です。事実、礼拝と従順であることには密接な関係があります。もし皆さんが教会に来て、賛美し、兄弟姉妹と交わり、教会を去った後に聞いたことに従わないとしたら、心から神を礼拝したことにはなりません。礼拝の究極のかたちは従うことです。

また、この箇所には礼拝のもう一つの側面も示されています。それは、祭壇を築くことと生贄の血から始まるということです。8-11 節にはこのようにあります。「8 モーセはその血を取って、民に振りかけ、そして言った。「見よ。これは、これらすべてのことばに基づいて、主があなたがたと結ばれる契約の血である。」9 それからモーセとアロン、ナダブとアビフ、それにイスラエルの長老七十人は登って行った。10 彼らはイスラエルの神を見た。御足の下にはサファイアの敷石のようなものがあり、透き通っていて大空そのもののようであった。11 神はイスラエルの子らのおもだった者たちに、手を下されなかった。彼らは神ご自身を見て、食べたり飲んだりした。」最後に、神の御前での特別な食事を見ますが、それは明らかにいけにえの血

の犠牲と関係しています。聞き覚えがありませんか。主の晩餐に与るとき、毎回のようコリント第一 11:23-25 を読みますが、そこには「これはあなたがたのための、わたしのからだです。わたしを覚えて、これを行いなさい。」 25 「この杯は、わたしの血による新しい契約です。飲むたびに、わたしを覚えて、これを行いなさい。」とあります。

出エジプト記に記された食事と聖餐式は、私たちは血の犠牲を通してのみ、神の聖さに近づくことができるのだと言う真理を思い起こさせます。出エジプトにある動物の生贄は、唯一の聖なる生贄を予見させるものでした。今わたしたちは、パンと杯を通して十字架上のイエス・キリストの聖なる犠牲を覚えます。その流された血なくして、私たちが神の御前に立つことは不可能です。私たちは聖くあるべきで、実際、十字架で罪の罰を負ってくださったイエスによって罪が贖われたことによって、聖い者とされました。ヘブル人への手紙 13:12 は「12 それでイエスも、ご自分の血によって民を聖なるものとするために、門の外で苦しみを受けられました。」と云っています。

神がモーセに個人的に語り掛けられたのは、この民全体による礼拝の後でした。12 節にこうあります。「12 主はモーセに言われた。「山のわたしのところに上り、そこにとどまれ。わたしはあなたに石の板を授ける。それは、彼らを教えるために、わたしが書き記したおしえと命令である。」」再び神のみ言葉が強調されています。神のみ言葉こそが、神の聖さを認識し、礼拝の中で神に近づく方法を知る道です。神は、ご自分が語られたことばを民やモーセが正しく覚えているかどうか不安にさせるようなことはなさいませんでした。彼らのためにそれを書き記し、今や神のみ言葉のすべてが私たちのために書き記されています。皆さんが神のみ言葉に普段から触れておられないとしたら、どうして神の聖さに照らして自分の罪を示され、それと向き合うことができるのでしょうか。もし神のみ言葉に心ゆくまで浸ることが全くないとしたら、どうして礼拝へと向かわせる、より大きな神を知ることが望めるのでしょうか。私たちが心に描く神のイメージは、往々にして天にいる上機嫌なおじいさんや、遠くから私たちをただ見守っている霊的存在です。ですが、神のみ言葉に目を向けると、モーセが山に登り、神と直接語り合う際に目にした光景を垣間見ることができます。モーセは民の長老たちを後に残して、16 節からにはこう記されています。「16 主の栄光はシナイ山の上にとどまり、雲は六日間、山をおおっていた。七日目に主は雲の中からモーセを呼ばれた。17 主の栄光の現れは、イスラエルの子らの目には、山の頂を焼き尽くす火のようであった。18 モーセは雲の中に入って行き、山に登った。そして、モーセは四十日四十夜、山にいた。」神のみ言葉の内に神の聖さを見ることは、神の栄光をより深く知ることです。私たちがこのような神の臨在の現実的な現われを目にすることは決してありませんが、私たちの心を揺さぶり、人生や教会生活において同じように神の栄光が現わされることを切望させるみ言葉を、神は与えてくださいました。神は毎週、私たちがこの場所に集い、何千年も前にイスラエルの民がしたように、礼拝する場を与えてくださいます。ここでは、神のみ言葉が礼拝に満ち、それに私たちは従順で応答し、私たちの救いを祝って主の晩餐に集います。聖なる生贄となってくださった御子イエス・キリストを通して私たちのものとなった救い、今日、あなたのものとしてできる救いゆえに、私たちは聖なる神の御前に聖く、義なる者として立つことができるのです。イザヤ書 6:3 のみ使いと共に呼び交わしましょう。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の主。その栄光は全地に満ちる

Exodus 23:20-24:18 The Holy God

If I were to summarize the book of Exodus in one word, it would be **holiness**. The book begins with Moses meeting a holy God who tells him in [Exodus 3:5](#), “Do not come near; take your sandals off your feet, for the place on which you are standing is holy ground.” In that moment, God reveals His name—YAHWEH, “I am who I am”—and His holy presence sets the tone for the entire book. The first part of Exodus recounts how God delivers His people from Egypt. After crossing the Red Sea, Moses sings of God’s holiness that saved his people. [Exodus 15:11–12](#) says “Who is like you, O Lord, among the gods? Who is like you, majestic in holiness, awesome in glorious deeds, doing wonders?... Beginning in chapter 19, as God calls His people to Mount Sinai to give His law and covenant, the emphasis on holiness becomes overwhelming. Holiness—God’s perfect sinlessness and righteousness—defines what it takes for humanity to enter His presence. The word “holy” is only found a few times in the first 18 chapters, but over 50 times from chapter 19 on. God’s purpose of holiness in this covenant is clearly stated in [Exodus 19:5–6](#). “Now therefore, if you will indeed obey my voice and keep my covenant, you shall be my treasured possession among all peoples, for all the earth is mine; and you shall be to me a kingdom of priests and a holy nation.” Holiness is the foundation of everything God is doing among His people. Last week, we looked at the holy time of Sabbath as central to building this holy nation. Today, in [Exodus 23:20–24:18](#), we continue that focusing on the holiness of God Himself as seen in the regular life of His people.

The first aspect of God’s holiness we see in this passage is that God’s leadership will always lead towards holiness. Look at verses 20-21. ²⁰ “Behold, I send an angel before you to guard you on the way and to bring you to the place that I have prepared. ²¹ Pay careful attention to him and obey his voice; do not rebel against him, for he will not pardon your transgression, for my name is in him. While God promises to lead his people through an angel, later as they travel through the desert, we see a pillar of fire and a cloud leading them, which is not a living being. But this angel is a living being. There is a use of personal pronouns, him and his. There is the ability to rebel against him, and his ability to pardon sin, transgression. In fact, while we are not given any names for this angel like Gabriel or even the Angel of the Lord which we saw in Genesis, we get a couple of clues that point to a possible identity. It is in the last part of verse 21, **he will not pardon your transgression, for my name is in him**. There are two key facts here – this angel has the ability to pardon sin and the name of God himself is somehow in him. There is only one other person in all of scripture that can be said to have these characteristics. It’s Jesus himself. He has the power to forgive sins. [Matthew 9:2](#) gives us one example of this. [2 And behold, some people brought to him a paralytic, lying on a bed. And when Jesus saw their faith, he said to the paralytic, “Take heart, my son; your sins are forgiven.”](#) And we know that Jesus’s nature is both deity and humanity – he is fully God and fully human. [Hebrews 1:3](#) says of Jesus, [3 He is the radiance of the glory of God and the exact imprint of his nature, and he upholds the universe by the word of his power. After making purification for sins, he sat down at the right hand of the Majesty on high...](#) Of course, we can’t say for sure that this is another preincarnate appearance of Jesus leading the people of Israel, but it definitely seems that at the least this angel is pointing us to Jesus. These two verses show us the need for holiness to follow God. This angel will pardon their sins...he will make them holy, so rather than being in rebellion to God, they will obey him. If you have not had your sins forgiven, if you have not been made holy, you cannot follow God. And this angel leading

the people of God is able to offer forgiveness for sins, which is what Jesus offers to all of us.

We see the need for holiness even more clearly in [Exodus 23:22–24](#). “But if you carefully obey his voice and do all that I say, then I will be an enemy to your enemies and an adversary to your adversaries. When my angel goes before you and brings you to the Amorites and the Hittites and the Perizzites and the Canaanites, the Hivites and the Jebusites, and I blot them out, you shall not bow down to their gods nor serve them, nor do as they do, but you shall utterly overthrow them and break their pillars in pieces.”

Obedience to God’s commands —especially “You shall have no other gods before me” and “You shall not make any idols”—is how His people follow His leading. Holiness is seen through obedience, and obedience sets God’s people apart from the world. The angel of God would lead Israel among ungodly nations, but they were to remain pure and holy. We aren’t called to destroy those who don’t worship God, but the principle stands—we must not serve the world’s gods. Whether it’s money, education, status, family, work, or the idols of Buddhist and Shinto deities, anything that takes God’s place becomes an idol. Like Israel, we live in the world but must not share its priorities. Jesus said in [John 15:19](#), “If you were of the world, the world would love you as its own; but because you are not of the world, but I chose you out of the world, therefore the world hates you.” Often when believers say they don’t sense God’s leading, it’s because they’ve let the world’s idols take His place. It’s not that God is silent—it’s that we aren’t truly listening or obeying.

Because as we see in verses 25–28, when we obey, we can be certain of God’s leading and blessing. “You shall serve the LORD your God, and he will bless your bread and your water, and I will take sickness away from among you. None shall miscarry or be barren in your land; I will fulfill the number of your days. I will send my terror before you and will throw into confusion all the people against whom you shall come, and I will make all your enemies turn their backs to you. And I will send hornets before you, which shall drive out the Hivites, the Canaanites, and the Hittites from before you.” Notice all the ways God promised to bless His people if they “serve [obey] the LORD your God.” They would have food, health, children, long life, and victory over their enemies—without even lifting a sword. Hornets would actually do some of the work! But before we apply this directly to ourselves, we must remember these promises were given to a specific people at a specific time. In fact, Israel soon disobeyed and failed to experience these blessings. We should not read this as if God were an ATM—where obedience automatically brings reward. That’s the error of the prosperity gospel, which makes God subservient to our desires. If I give, then God must give back materially. Or it wrongly applies Israel’s promises directly to the church. All of God’s law and covenant are fulfilled in Christ. So our blessing is found in Him, not in material things. Jesus said in [Matthew 6:34](#), “Therefore do not be anxious about tomorrow, for tomorrow will be anxious for itself…” If we follow Jesus and live holy, obedient lives through Him, we have no reason to worry. We can trust that God provides all we need—not everything we want, but everything He knows we need. And sometimes, that includes pain, waiting, or hardship. In other words, his sovereign plan may not match our desires, but it is always what best exalts Him and brings our ultimate good.

We see exactly that as this passage continues in verses 29–33. ²⁹ I will not drive them out from before you in one year, lest the land become desolate and the wild beasts multiply against you. ³⁰ Little by little I will drive them out from before you, until you have

increased and possess the land. Then verse 32 ³² You shall make no covenant with them and their gods. ³³ They shall not dwell in your land, lest they make you sin against me; for if you serve their gods, it will surely be a snare to you.” Here we see that God’s blessing can be incremental for our own good. We don’t have God’s vision of the bigger picture. To the people of Israel having all these nations still around them could have been scary from a defense standpoint... it could have been a temptation to sin as God makes the point here to them... or it could have been an opportunity for trade and commerce, which also does not seem to be God’s plan – “no covenant with them.” But God is protecting the land in such a way that the cities and buildings and fields are still usable once he gives the land to Israel. We don’t always know what he is doing, but if we really trust God, then we should trust his character enough to know that by working all things to his glory, he at the same time is working all things to our good and for our joy in him.

But then starting in chapter 24, a second aspect of God’s holiness becomes clear. God is always leading us towards holiness, not wealth, not riches, not really even blessing, but more to reflect his character and glory. **But as we approach God, God being holy determines for his creatures how we get to approach him.** We approach God in worship, and what we see in this passage are the elements of a worship service beginning in verses 1-2. ²⁴ Then he said to Moses, “Come up to the LORD, you and Aaron, Nadab, and Abihu, and seventy of the elders of Israel, and worship from afar. ² Moses alone shall come near to the LORD, but the others shall not come near, and the people shall not come up with him.” Right away we see Elders overseeing the worship of God by the people and even a call to worship – Come.. to the Lord... and worship...! Then verse 3 continues... ³ Moses came and told the people all the words of the LORD and all the rules. And all the people answered with one voice and said, “All the words that the LORD has spoken we will do.” ⁴ And Moses wrote down all the words of the LORD. He rose early in the morning and built an altar at the foot of the mountain, and twelve pillars, according to the twelve tribes of Israel. ⁵ And he sent young men of the people of Israel, who offered burnt offerings and sacrificed peace offerings of oxen to the LORD. ⁶ And Moses took half of the blood and put it in basins, and half of the blood he threw against the altar. ⁷ Then he took the Book of the Covenant and read it in the hearing of the people. And they said, “All that the LORD has spoken we will do, and we will be obedient.” What do we see happening here? First, we see the reading of God’s Word. Moses isn’t giving his opinion; he is declaring to the people the Word of God, and it is even the written Word of God. This is what we do in worship every time we open the Bible and sing it, read it or preach it. Secondly, we see the people respond to the Word of God with a confession of faith and a commitment to obedience. Twice in these verses, we see the people respond by saying **All the words that the LORD has spoken we will do.** This is the response we are looking for in worship everytime. In fact, worship and obedience go hand in hand. If you come and sing, and fellowship and leave and do not obey what you heard, then you haven’t really worshipped God in your heart. The highest form of worship is obedience.

But there is another aspect of a worship service we see in this passage as well that begins with the building of the altar and the blood of the sacrifice. Then verses 8-11 says, ⁸ And Moses took the blood and threw it on the people and said, “Behold the blood of the covenant that the LORD has made with you in accordance with all these words.” ⁹ Then Moses and Aaron, Nadab, and Abihu, and seventy of the elders of Israel went up, ¹⁰ and they saw the God of Israel. There was under his feet as it were a pavement

of sapphire stone, like the very heaven for clearness. ¹¹ And he did not lay his hand on the chief men of the people of Israel; they beheld God, and ate and drank. Finally, we see a special meal held in the presence of God, clearly tied with the shedding of a blood sacrifice. Does this sound familiar? 1Corinthians 11:24-25 that we read nearly every time we share communion says, “This is my body, which is for you. Do this in remembrance of me.” 25 ... “This cup is the new covenant in my blood. Do this, as often as you drink it, in remembrance of me.” This meal in Exodus and the meal we share in Communion remind us of the truth that we only approach God’s holiness through a blood sacrifice. The one holy sacrifice was anticipated by animal sacrifice in Exodus, and now through the bread and the cup we remember the holy sacrifice of Jesus Christ on the cross. Without that shed blood, we cannot enter God’s presence. We need to be holy, and we ARE made holy by our sins being paid for by Jesus who took the penalty for those sins on the cross. Hebrews 13:12 says. ¹² So Jesus also suffered outside the gate in order to sanctify [Make holy] the people through his own blood.

It is after this worship service with all the people, that God then speaks personally to Moses. Verse 12 says, ¹² The LORD said to Moses, “Come up to me on the mountain and wait there, that I may give you the tablets of stone, with the law and the commandment, which I have written for their instruction.” Again we see this emphasis on the Word of God. The Word of God is how we see the holiness of God and know how to approach God in worship. God did not leave the people or Moses to wonder if they actually remembered correctly what God had told them. He wrote it down for them, and now we have God’s entire Word written down for us today. If you are not in God’s Word on a regular basis, then how can you ever be confronted and convicted of your sin in light of God’s holiness? How can you ever hope to get a bigger vision of God that will lead you to worship him if you never let yourself feast on the Word of God? The image we paint of God in our minds is too often a happy grandpa up in the sky or a spirit being just watching us from far away. But when we turn to God’s Word, we get a glimpse of what Moses saw as he goes up on the mountain to speak directly to God. He leaves the other Elders of the people in charge, and in verse 16 we read, ¹⁶ The glory of the LORD dwelt on Mount Sinai, and the cloud covered it six days. And on the seventh day he called to Moses out of the midst of the cloud. ¹⁷ Now the appearance of the glory of the LORD was like a devouring fire on the top of the mountain in the sight of the people of Israel. ¹⁸ Moses entered the cloud and went up on the mountain. And Moses was on the mountain forty days and forty nights. To see God’s holiness in his Word is to know more of God’s glory. We will never see this type of physical manifestation of God’s presence, but he has given us his Word that can stir our hearts and our desires to see God’s glory displayed in our lives and in our church in a similar way today. He allows us each week to gather in this place and worship as the people of Israel did thousands of years ago—where the Word of God saturates our worship, we respond in obedience, and gather at the table of communion to celebrate our salvation. A salvation that is yours or can be yours today through God the Son Jesus Christ who became the holy sacrifice so we could stand holy and righteous before our holy God. And say with the angels of Isaiah 6:3, “Holy, holy, holy is the Lord of hosts; the whole earth is full of his glory!” Let’s pray.